



麻疹（はしか）に関する YCDC 医師レポート

まとめ

- 1) 山梨県で、社会生活に影響が生じるほどの流行（インフルエンザや新型コロナウイルス感染症）が起きる可能性は低い。
- 2) 日本でも海外でも、子供の麻疹ワクチン定期接種率低下が問題となっている。
- 3) 子ども達の定期接種をしっかりと受けられる様にしましょう。
- 4) 心配な方は自分の母子手帳を確認し、接種記録／罹患記録があるか確認しましょう。
- 5) 高齢者の多くは小さい頃に罹患している可能性が高いため、ワクチン接種は通常不要です。

■ 概要

麻疹（はしか）は、パラミクソウイルス科に属する麻疹ウイルスによって引き起こされる感染症です。免疫を持っていない人にとっては、とても強い感染力（基本再生産数 18:免疫を持っていない人たちには、1人から最大 18人に感染させる力がある）と重症化する危険があります。

■ 世界の状況

WHOによると、東太平洋地域では以下のように感染者が増加しています。

	2022 年	2023 年	2024 年
フィリピン	589	2892	3844
インドネシア	7704	18063	6328
タイ	64	64	8202
ベトナム	23	43	7854

ヨーロッパでは毎年の様に流行がありましたが、2020 年からはロックダウンや海外渡航制限の影響で流行が見られませんでした。2023 年に入ってからいくつかの国で流行が確認され、2024 年にはベルギーで 527 人、フランスで 484 人、ドイツで 638 人、イタリアで 1057 人と患者数が増加しています。2025 年 2 月から 2026 年 1 月までの 1 年間にフランスでは 821 人の感染者がいました。2020 年以降麻疹ワクチンの接種率が低下していることが問題視されています。

<https://www.ecdc.europa.eu/sites/default/files/documents/measles-eu-threat-assessment-brief-february-2024.pdf>

アメリカでは 2023 年では 58 例、2024 年に 285 例、2025 年に 2287 例と増加しています。

■ 日本の状況

日本では 2024 年に 45 例、2025 年に 265 例、2026 年に入ってから第 12 週（3 月 22 日まで）で 152 例にのぼり、急激に増加しています。インドネシアなど国外からの帰国者・入国者のほか、国内感染例は東京都や愛知県などで多く、20 歳以上が半分以上を占めています。

■日本で麻疹はインフルエンザやコロナのように流行するのか

他国と同様に、日本国内でもある一定感染者が増加する可能性があります。しかし日本では麻疹ワクチンの定期接種が幅広く行われているため、東南アジア各国のような数千人の感染者数にはならず、日常生活に影響の出るほどの感染拡大（インフルエンザや新型コロナウイルス感染症のような）にはならないと思われます。麻疹ワクチンは極めて効果的で、その予防効果は 1 回接種 93%、2 回接種で 98%とされています。日本では 1978 年（昭和 53 年）から 1 回の定期接種が始まり、1990 年（平成 2 年）からは 2 回の定期接種が義務化されました。これにより日本での麻疹の大規模流行は非常に起きにくくなっています。1978 年より以前に生まれた方も、麻疹にかかったことがある人が多く、同じくかかりにくい状態です。これは 2021 年の年代別麻疹抗体価を調べた報告から類推可能です。

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/typhi-m/iasr-reference/2569-related-articles/related-articles-511/11513-511r03.html>

■現在の課題は何か？

① 麻疹ワクチンの定期接種率低下

一つ目は、COVID-19 流行下を経て、子ども達の麻疹ワクチン接種率が低下していることが挙げられます。地域内流行を防ぐためには95%の人が免疫を持っていることが一つの目安と考えられています。東太平洋地域でも、ヨーロッパでも、アメリカでも、そして日本でも、ワクチン接種率が低下しています。このことから麻疹がある一定数流行する素地ができてしまっています。山梨県の令和 6 年度の麻疹風疹ワクチン予防接種率は、I 期 94.6%、II 期 91.4%と令和5年度よりは増加していますが、目標の接種率 95%には達していません。

②海外移動の増加

二つ目は、COVID-19 の流行中に減少した海外への移動が、再び増加したことです。日本は 2015 年に麻疹が国内流行状態にない（排除状態）と判定されています。ですが日本人が多く移動する東南アジアは上記の通り麻疹の流行状態にあります。海外旅行あるいは赴任時に麻疹の抗体がない状態で移動し、罹患し、帰国したときに麻疹を持ち込み、周りに感染させてしまう状態が見られます。

③麻疹ワクチンの流通

現在は麻疹単独のワクチンはなく、麻疹風疹（MR）混合ワクチンしかありません。麻疹への抗体をつけたい場合には MR ワクチンを接種します。

④だれが麻疹に罹患しやすく、問題となりうるか

一番問題となるのは、麻疹ワクチンを打つには年齢が足りない 12ヶ月未満の乳児です。ある程度親からの抗体で守られるものの、免疫のない状態ですから麻疹にかかりやすく、かつ重症化しやすい状態です。なぜ 1 歳以降にワクチンを打ち始めるのかというと、その前に打っても子供の免疫が十分発達していないため、ワクチンの効果が十分発揮できないためです。ですから、ワクチン定期接種の子供世代を含め、大人も 95%以上の麻疹抗体を持っていることが望まれるのです。また免疫が弱っている成人

(抗がん剤を投与していたり、血液の病気にかかっている)では麻疹に罹患する可能性が上がります。つまりワクチンを打てない乳児や、免疫が落ちている人を守るためにみんながワクチンを打つ(集団免疫)、という感覚です。

■ 今できること

① 子ども達のワクチン定期接種をしっかりと受けましょう。

まずは子ども達のワクチン定期接種の機会を逃さないようにしましょう。

麻疹風疹ワクチンに限らず、5 種混合ワクチンや日本脳炎ワクチン、ヒトパピローマウイルスワクチンなども同様です。

② 自分のワクチン接種歴を確認しましょう。

2 回の接種歴か、麻疹にかかった記録があるならば、ワクチンのさらなる接種は不要です。1 回の接種歴がある場合、93%程度の予防効果はありますが、可能ならば 2 回の接種を完遂してください。

③ ワクチン未接種あるいは接種したかわからない場合。

医療機関で麻疹の抗体価(免疫力)を測定してもらおうと良いでしょう。ある一定の値があれば、過去にかかったか、ワクチンを打っている可能性が高いです。採血検査で1週間ほどあれば結果が出ます。医療保険は使用できず、自費診療になりますのでご注意ください。

【参考①】厚労省 HP 麻しんについて

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/measles/index.html

【参考②】厚労省 HP 麻しん風しん予防接種の実施状況(都道府県別地図)

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou21/dl/231106-01.pdf>

◆山梨県感染症ポータルサイトもご覧ください



やまなし感染症ポータルサイト

Yamanashi Center for Infectious Disease Control and Prevention

https://www.pref.yamanashi.jp/kansensho_portal/index.html